

科目名	現代中国政治論特講	担当者	ヤマモト 山本 タダシ 忠士	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>中国を理解するためには、その国土の広さ、歴史の長さ、人口の多さを念頭に置く必要がある。特に現代中国の政治は、1842年のアヘン戦争以来の歴史—それは屈辱の時代といわれ、現行中華人民共和国憲法の序言にもこの歴史的経緯が記されているように、近代から現代までの連続的な流れを知る必要があることを示している。</p> <p>中華人民共和国は、1949年の建国以来60年余。中国共産党が国家を指導する「党国体制」といわれる統治システムを取っている。都市と農村との経済格差、国民を二分する都市戸籍と農村戸籍、安全保障、環境問題、多民族国家であるが故の難しい問題も抱えている。様々な問題をはらみながらも党指導による国家運営はGDP世界第2位という経済成長をもたらし、国連の常任理事国として国際政治でもますますその存在感を高め、その動向は日本にも大きな影響を与えている。</p> <p>現代中国の政治プロセスや国家・党や司法・立法・行政との関係等について知見を深める。</p>		
到達目標	<p>現代中国について、幅広く内外の諸資料を参酌し、意見交換等によって、日本とのかかわりの深い隣国・中国のたどってきた歴史と指導者及び統治機構等についての理解を深める。</p>		
学修方法	<p>日本のマスメディアの中国報道には、過激な内容のものもみられるが、諸資料を幅広く参照し、冷静客観的に隣国を知る必要がある。具体的には、テキストや中国関係資料の整理・分析することによって現代中国に関する知見を深めながら、レポート課題を作成する。</p> <p>なお、レポートの作成の過程で適宜担当教員と質疑をする。</p>		
スケジュール	<p>前期（基本教材1）の課題レポートは、『大学院要覧』記載の形式により草稿提出と最終提出の2段階で行う。前期課題（1）、（2）の草稿は、7月末、課題（2）は8月末を目途に提出する。レポートの作成に際して、質問、疑問等は適宜、メール等でおこなう。</p> <p>課題（1）、課題（2）の最終稿は、ともに9月中旬までにメール添付で提出する。</p> <p>後期（基本教材2）のレポート課題（1）の草稿は11月20日、課題（2）は12月20日までにメール添付で提出する。最終稿は2018年1月課題提出締切日までに提出する。</p> <p>質問、疑問等があれば、適宜メール等でおこなう。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>1. レポートとしての構成が整い、誤字脱字のないこと。</p> <p>2. 課題の内容を正確に理解し、レポート内容が論理的で説得力があるかどうか。</p> <p>3. 考え方に独自性があるかどうか。</p>
	平常評価	20%	平常時のメール等でのやり取りの内容を評価。
履修者への要望	<p>1. 通信制大学院は、相互の顔が見えないところがあるので、メール等を使用してコミュニケーションをはかりたい。</p> <p>2. 日中両国民の相互認識はかつてないほどに悪化しているが、それだからこそいたずらに過激な言動に流されることなく、冷静な目で隣邦・中国を研究してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 浅野亮 川井悟編著 教材名： 『概説 近現代中国政治史』（ミネルヴァ書房，2012年） ISBN:978-4-62-306100-6 3,800円+税 【紀伊國屋ウェブストアは在庫僅少です】
	中国は不確実性を抱えながら「台頭」を続けている。本教材は近現代政治史という表題に見られるように、清末、中華民国、中華人民共和国という流れの中で中国の政治的な動きについて、時系列と事項別の二本だてでまとめられている。時系列的には1830～1939年の清朝末期から民国期までの政治体制，1931～45年までの抗日戦争期，1945～81年までの建国から改革開放まで，1982～2010年までの建国60周年までと4期にわけられている。事項別では政治，経済，社会を中心に，交通・通信制度の形成，国家アイデンティティと国民国家形成，現代中国の政治・社会変動，党・政・軍の三位一体の統治構造等について整理されている。
参考図書	曾憲義・小口彦太編『中国の政治』（早稲田大学出版部，2002年） ISBN:978-4-65-702307-0 3,000円+税 荘光茂樹『現代中国政治』（桜門書房，2004年）1,900円+税
履修上のポイント	中国の近代国家建設への苦悩と対日姿勢の変遷や冷戦と人民中国建設の模索，さらに毛沢東体制から脱毛沢東への移行と改革開放の軌跡を追いながらその政治変動を理解する。
レポート課題1	「毛沢東と中華人民共和国の成立について」 留意点：1. 毛沢東の政治思想と政治行動 2. 現代中国政治における毛沢東の役割
レポート課題2	「鄧小平の改革・開放政策について」 留意点：1. 鄧小平の政治思想と政治行動及び改革・開放政策推進と今日の中国 2. 21世紀の中国展望と今後の日中関係

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西村成雄・国分良成著 教材名： 『党と国家—政治体制の軌跡—叢書・中国的問題群1』（岩波書店，2009年） ISBN:978-4-00-028251-2 2,200円+税 【紀伊國屋は注文不可・アマゾンで中古購入可能です】
	20世紀中国には、清朝末期、中華民国、中華人民共和国という三つの国家があった。国名が異なるばかりでなく皇帝支配，立憲共和国，社会主義体制というように政治形態であり，それらを支えた主義や価値観も儒教，三民主義，マルクス・レーニン主義と異なる。しかし，中華民国，中華人民共和国には，制度や教義の枠組みの断絶性を超えて現実の機能や実践の部分で共通性がみられる。それは，「豊かさ」と「強さ」への希求であり，この「富強」実現のために統一国家を維持する強権主義があった。西洋的な価値や普遍的価値への関心を持ちながらも「中国の特殊性」に対するこだわりがあった。20世紀中国の政治体制を「党」と「国家」との関係の新視点でとらえた。
参考図書	高見沢磨・鈴木憲著『中国にとって法とは何か—叢書・中国的問題群3』（岩波書店，2010年） ISBN:978-4-00-028253 2,600円+税
履修上のポイント	1. 立憲君主から立憲共和への流れ 2. 中華民国「党国体制」と「民参政会」 3. 戦後「連合政府」を巡る政治的配当 4. 中国共産党支配下の「党国体制」 5. 国際システムと党国体制の相克
レポート課題1	「中華民国と中華人民共和国との「党国体制」の相違について」 留意点：①中華民国の党国体制と国民参政会，②中国共産党支配下の党国体制，③国際システムと党国体制の相克
レポート課題2	「日本の法と中国の法の相違について」 留意点：中国は「人治」の国で，「法治」は軽んじられてきたといわれる。国内法も西洋法やソ連法の影響を受けてきた。国民を統治する道具としての「法」体系から，市民の権利を守る体系へと進みつつある。法は，どのように変化したのか。日本との比較で論じる。